

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



12月4日、開催を見合わせていた自然と親しむ会を久びさに開催し、初冬の奈良公園を散策した。

### Contents

- 2022 年頭のごあいさつ ..... P 2
- GEN なんでも勉強会 GEN 自然と親しむ会参加者募集 P 3
- あの人この人 ..... P 4
- 黄土高原紀行 ..... P 6
- 大同緑化協力 25 年の軌跡 ..... P 7

2022.1  
203

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



# 2022 年頭のごあいさつ

## 30周年、節目の年を迎えて

GEN代表 前中 久行

会員のみなさま



西暦 2022年となりました。しかし、新型コロナの影響で不自由かつ不安な暮らしが続いています。年初にあたり会員の皆様の健康と安全・安心、平穏な暮らしを祈ります。また世界平和と全人類の幸福、それらを支える世界経済の安定・発展を願います。新年快乐！ 身体健康！ 恭喜发财！

昨年も新型コロナに世界中が翻弄されました。新型コロナ制御のために働いている方がたに心から感謝します。いっぽう適正でない施策が混乱を増長した側面もありました。

さて、緑の地球ネットワークの準備会が活動をはじめたのは1992年1月5日でした。1993年に正式発足し、2016年までは山西省大同市で、その後も大同市との関係を保ちつつ河北省張家口市蔚県で、合わせて30年間活動を続けてきました。植栽樹木総数は約1900万本、植栽総面積は約6000haになります。

初めの頃は失敗もあったのですが、黄土高原の環境への理解がすすんだことや植樹技術の改良、なによりも現地の人びととの相互理解がすすんだことで、よい結果が得られるようになりました。一例として2004年に植えたカササギの森のモンゴリマツは2016年には高さが平均4.5mに成長していました。ここしばらくは新型コロナのため現地確認できていませんが現時点では7m程になっているでしょう。それ以前のマツ植栽地はあちこちで高さ10m以上の松林となっています。かつては荒涼と

していた黄土高原が、一面緑の松林や収入の得られるアンズ果樹園になっています。新しい活動地の張家口市蔚県でも順調に成長しています。GEN活動の発端は緑化ですが、成し遂げてきたことは、緑化の範疇を広く越え、GENの定款にある「地球環境のための国境を越えた民衆の協力」であったと確信します。

このような素晴らしい成果を得ることができたのは、まさに活動に協力、支援いただいた会員の皆さまのおかげです。また資金協力いただいた個人、団体、諸機関、さらに現地では地元との調整や関係公機関との諸手続き、実際の植樹作業やその後の育成管理と多くの方々のご協力、支援のおかげです。心より感謝いたします。

中国では政策や制度の変化が目まぐるしく、外貨管理の厳格化や外国NPO活動の登録がすすめられています。

## 虎虎生威 勇敢に緑化事業を進めよう

GENも当然その制度のもとで活動します。昨年、カウンターパートが北京林学会となり、また中国国内で活動する外国NPO団体として届け出をしました。手続きは大変でしたが高見副代表人脈の努力でかろうじてタイムインできました。これで今後も中国国内で定期的に活動を継続する条件が整いました。

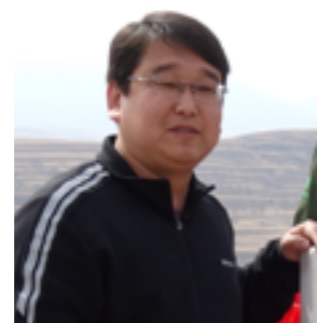
ここ2年間は新型コロナの影響で日本から中国へ行くことはできませんでしたが、現地との連絡はリモートで取れており、現地での植樹は予定通り進んでいます。今年についても実施の見通しが立っています。現地への訪問が可能になればツアーを再開します。

活動30周年の記念事業については、活動報告書の作成、交流会、その他を中国との往来が可能になった時期に考えています。現在資料の整理をすすめています。GENの今後の活動やそれを支える組織体制についてもワーキンググループを設けて検討を始めています。ご意見や提案をお願いします。

講演会、学習会、支部活動、運営懇談会、総会、自然と親しむ会などさまざまな形での参加とご支援、ご協力をよろしくお願いします。

蔚県陽眷鎮人大主席 李志剛

GENのみなさま



ございます！

2017年に緑の地球ネットワークが蔚県で植林緑化をスタートして以来3年間、活動に参加し、会員のみなさんと一緒に友情・環境保護・希望を象徴する小さな苗木を植えてきました。

2019年から新型コロナウイルスが

中国河北省蔚県の李志剛です。会報で新年の挨拶ができ、光栄です！ 寅年おめでとございます！

世界を襲い、交流活動に影響を与えましたが、造林・緑化は止まることなく、環境保護の考えが浸透してきています。5年が経過した現在、当時の若木は太くなり、緑化総面積は166haに達しました。この数は今後も増えていくことでしょう。

2022年は十二支の寅年です。虎は王者の気概を持ち、強壮と威武の象徴です。必ずやウイルスを吹き飛ばし、喜びと平和の年を迎えられることとなるでしょう。

新年の誠実な祝福と、みなさまの虎年の吉祥を祈り、虎のような勢いを持って、中日両国の人民の友好が永遠に残り、私たちの環境保護事業が大きく成長し、発展することを祈ります！

参加者募集

## GENなんでも勉強会オンライン ヨーロッパ人の暮らしと森 エストニアとドイツから

新型コロナ流行の影響で、ソーシャルディスタンスを保てるレジャーとしてキャンプが人気です。少しでも森に親しみ、森を知り、森を守る人が増えるといいですね。

バルト三国の1つであるエストニアは古くから森林信仰によって人と自然が結びついてきました。技術革新によって日々の暮らしが大きく変わりゆく中、森林は人々にとってどのような存在となってきたのでしょうか。

森林国のイメージがあるドイツの森林被覆率は33%ほどとさほど大きくありません。しかし、その多くは都市近郊にあってよく管理され、普段から人々は森林に親しんでいるようです。

実際に両国で暮らす山元さん、藤沼さんにお話をうかがい、日本とヨーロッパの森との付き合い方についての鼎談を聞いて、あなた自身の森との付き合い方を考えてみませんか。

○日時：2月24日（木）19時～21時

- 手段：Web会議システム Zoom
- 講師：山元周吾さん（合同会社喜代七副代表、ドイツ在住）、藤沼潤一さん（GEN世話人、エストニア在住）長坂健司さん（GEN世話人）
- 参加費：無料
- 定員：100名
- 申込み：以下のいずれかの方法でお申込みください。

- ①件名を「オンライン勉強会参加希望」とし、本文にお名前を記入して2月21日までにGENまで（gen@gentree.org）メールを送る
- ②2月21日までにGENホームページのイベント情報欄から申し込む
- ③2月23日までにPeatixから申し込む（<https://gennandemo09.peatix.com/>）

参加者募集

## GEN 自然と親しむ会 大阪城公園でバードウォッチング

木々が葉を落としている冬はバードウォッチングの季節です。海を渡って冬を過ごす鳥など、この時期ならではの野鳥の姿を大阪城公園で一緒に観察しませんか。

日本バードレスキュー協会理事の大門聖さんに解説していただきながら観察しますので初めての方もぜひご参加ください。

○日時：2月20日（日）10時～15時ごろ

- 場所：大阪城公園
- 案内：大門聖さん（高槻市立自然博物館（あくあびあ芥川）学芸員、（特非）日本バードレスキュー協会理事）
- 集合：大阪城公園森ノ宮側入り口（大

阪メトロ森ノ宮駅3B出口出すぐ）

- 参加費：700円（保険料含む）
- 定員：15名
- 持ち物：歩きやすい服装と靴、弁当、飲み物、敷物、あれば双眼鏡、野鳥図鑑
- 申込み：2月16日（水）までに氏名、生年月日、連絡先をGEN事務所までお知らせください。GENホームページのイベント情報欄からもお申込みいただけます。

※小雨決行  
※新型コロナウイルスの感染防止対策をしながらおこないますが、状況により変更・中止の可能性があります。

## GEN 運営懇談会 をおこないました

12月11日（土）、2021年度のGEN運営懇談会をおこないました。大阪の会場とオンラインを併用しておこない、23名が参加しました。

今回の運営懇談会では、蔚県での植樹の報告のほか、GENホームページのリニューアル、会費の見直し、将来ワーキンググループの報告、30周年記念事業などが議題に上がり、それぞれ活発に議論を交わし、さまざまなアイデアが寄せられました。

その他、関東ランチの活動再開を望む声や、2月のワン・ワールド・フェスティバルに出展する動画の視聴もおこなわれ、動画を見ての感想も寄せられました。

## 年末寄付のご報告

いつもGENの活動にご支援をいただき、ありがとうございます。

11月の会報で年末寄付を呼びかけたところ、たくさんのご寄付をいただいたので報告いたします。

11月5日～12月30日までのあいだに、2,530,698円、53件のご寄付をいただきました。大口のご寄付が複数含まれています。ご協力ありがとうございました。

前年同期間の寄付は2,617,057円、65件でしたので、金額、件数とも少し減

少していますが、新型コロナで大変ななかご協力いただき感謝しております。

また、4月1日からの累積額は、3,608,062円となっており、予算に対して57%と厳しい状態です。昨年度に引き続きスタディツアーが実施できず、今後の見込みもなかなか立たないため、GENの財政は厳しい状況が続きます。ご寄付以外でも、会員や会報購読者を増やすなどのかたちでご協力をいただけると幸いです。



# あの人 この人

「あの人この人」では、個性豊かな GEN 会員のあれこれをご紹介します。

このコーナーでご自身を紹介して下さる GEN 会員を募集しています。「我こそは」という方は GEN までご連絡ください。

今回は小寺範生さんにご登場いただきました。大同へのツアーはもちろん、国内の活動にも数多くご参加いただいています。

## 小寺 範生さん（兵庫県）

・自己紹介をお願いします。

8 回目の寅年を迎えます。若いころから山登りが好きでしたが、そのうち里山の荒廃が気になり、70 年代から里山保全の活動に参加して専ら木を切り続けていました。

人間が荒らした森林を復活させる



GEN の手法が全く逆であるのに興味を持ち、入会以前からいくつかの活動に参加させてもらっていました。

大同へは 2004 年から 12 年まで、ツアーや専門家のお供で 10 数回参加しました。コロナ自粛以来座敷ねこを決め込んで、みなさんとはネットだけでつながっています。

・いつから GEN に参加しましたか？

2004 年 3 月

・GEN に入ったきっかけは？

里山保全のセミナーの会場で、高見

さんにお会いしたのがきっかけです。

・印象に残っている GEN の活動は何かですか？

白登苗圃や緑の地球環境センターの開所、20 周年記念行事など。個人的には犬にかまれたメンバーと村の診療所へ行ったことや、王萍副院長の病院で私のけがを治療してもらったことなどです。

・GEN の良いところは？

人を引き付けるというより、人が自然に寄ってくる魅力とでも言いましょうか。

・逆に悪いところは？

あえて言うなら、ボランティア関係者だけでなく、社会一般の人々にもっと知ってほしいことです。

・GEN に期待すること

20 年単位の活動、息の続く体力を維持・発展させてください。

・会員のみなさんへひとこと

地球規模の問題が重くのしかかる現在、GEN での活動が視野を広めるチャンスになればと願っています。

# いままぐできる GEN への協力

## ■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）	
一般会費	12,000 円
家族会費（同居の家族 2 人目から）	6,000 円
学生会員	3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000 円
団体会員	12,000 円
賛助会員	100,000 円

※会費は会報購読料を含んでいます。

## ■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただませんか。年間購読料 2,000 円。

## ■緑化資金、運営寄付もとむ

金額は自由です。また、緑化資金、運営寄付の別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

\* 緑化資金の 20% は事務管理費になり

ます。

## ■絵はがき『黄土高原の花』

8 枚組・300 円（送料別途。5 セット以上送料無料）

## ■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

## ■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。古切手は周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。

## ■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN から連絡します。

\* \* \* \* \*

## 【GEN への寄付は税制上の

## 優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認

定された認定 NPO 法人です（期限は 2024 年 4 月 8 日まで）。

個人による GEN への寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは年間 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO に寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち 1 口を超える部分、賛助会費から 12,000 円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。くわしくは GEN までご連絡ください。



## 古都奈良で鹿との共存を考える

西峯 良三（GEN 会員）

12 月 4 日、GEN 自然と親しむ会 前中代表と歩く野の道シリーズ⑩「奈良公園で紅葉を楽しむ」をおこないました。19 名が参加しました。

12 月 4 日（土）、短い秋が去り、自然と親しむ会が初冬の奈良公園とその周辺を巡って行われました。

総勢 19 人のマスク着用のメンバーが近鉄奈良駅前を 10 時に出発。東大寺大仏殿から二月堂へ坂道を上り、時計廻りに若草山のすそ野で弁当を食べ、春日大社を北側から横切り、春日山遊歩道に入り、若草山へ通じる登り道をうねうねと歩き、うぐいす塚古墳のある若草山山頂にたどり着きました。

その間、所どころで、前中代表から楓の葉による種類の見分け方や、鹿が口にしないアセビやナギ、シダ等だけが増加していることの説明・解説を聞き、鹿の食害の深刻さを改めて知らされ、奈良の自然の不自然をなんとかするには鹿の頭数を劇的に減らすしかないの…と思った次第。

現在、奈良公園とその周辺に生息している鹿は 1400 頭に達しているとのこと。

これだけ増えると鹿は年中空腹をかかえている状態で、周辺の農地に入り込んで作物を荒らしたり、観光客のバッグに首を突っ込んで食べ物を取り出して食べたりと、春日大社の神鹿とは思えない品のない行為をしてしまうわけで、これもみな神鹿とか、天然記念物だとか、観光資源だからとか、寺社、官公庁、観光業者それぞれの思惑、そこへ数を減らすと云っただけで目尻を釣り上げて文句を言いだす動物愛護協会のオバサマたち等がからみあって本当に鹿の身になって考えてほしいものだ、てなことを思いながら、山焼き用の草を鹿に食べられないように柵



で囲っているのを横目に見つつ、山を下り帰途につきました。

「自然遺産を鹿が食う」と名言を吐いた人がいますが、まったくその通りだと納得。

高見副代表から大同の村で過放牧による農地の荒廃化を、放牧を差し止めることで、緑が回復しだしたという話を思い出し、「他山の石」とすべきだと思った次第です。



## 視点により変化する中国の環境対策

大塚 健司（GEN 会員）

11 月 25 日、GEN なんでも勉強会オンライン「環境からみる中国のいま」をおこないました。オンラインで中国・北京とつなぎ、染野憲治さんにお話しいただきました。29 名が参加しました。

今回の勉強会講師の染野憲治さんは、環境省、北京の日本国大使館、そして同じく北京にある日中友好環境保全センターでの実務を通して、長年にわたって日中環境協力事業の推進にご尽力されてきた「中国通」（中国語で中国のことをよく知る人の意）である。私も北京に出張の機会があるたびに、時間さえ合えば、染野さんのオフィスを訪問して、中国の環境問題や日中環境協力についてさまざまな情報・意見交換をさせていただいてきた。この 2 年間はコロナ禍のため日中間の往来もままならず、中国の現地の情報から疎くなりつつあったところ、しばらくぶりに GEN でのオンライン勉強会で染野さん

のお話をうかがうことで中国現地から見た最新の動向を知ることができたのは幸いであった。

講演内容は、PM2.5 を中心としたスモッグの頻発を受けた大気汚染対策の強化、都市の生活ごみの増加への対応としての分別システムの導入や世界的にも問題となっているプラスチック廃棄物に対する管理の強化、世界最大の CO2 排出国となった中国の気候変動対応の取り組み、そして中国の環境政策のこれまでの歩みと最近の動向を踏まえた将来の展望など、中国の環境問題の現在を知り、今後の課題を考えるための基礎的かつ詳細な情報が周到に準備されたものであった。

染野さんが指摘されたように中国の環境対策については、広くて深い中国大陸のどこの、何を見るかによって、先進的だと感じたり、逆に発展途上だと感じたりすることだろう。それは、最先端技術を集約した電気自動車であるテスラが走っている北京で、ロバが荷物を載せて歩いているような光景を（さすがに少なくなったものの、いまだに）見ることに象徴される。また必ずしも環境対策と直結するものではないが、デジタル化については、日本での生活感覚からするとついていけないほど、中国のほうが急速に進んでいるということもあわせて紹介がなされた。

世界の最先端の技術・社会革新の中心となりつつある中国で、今後、広大な農村地域でも生活と環境の改善が高速でスマートに進んでいくのか、あるいはまだら模様で格差や矛盾を抱えつつゆっくりと進んでいくのか、引き続き注目していきたい。





黄土高原紀行<7>

一、雲岡石窟（6）

雲岡見学の誰もがするように、われわれも第20窟のまえに全員がそろって記念撮影。

このあと私は、もときた方にもどりつつ、石窟番号を逆にたどってゆく。

第15窟Aは、無残にも前壁に大きな孔が三カ所あいている。この3区画から仏像を抜き取ったのだ。中段の西側にも交脚像が残っているが、他の交脚像2体と別の1体は、ここから持ち去られて、いま欧米の美術館に所蔵されているという。

一つとばして第13窟は、弥勒菩薩大像。これは文成帝の皇后だった馮氏によって帝位を追われ、さらに命までも奪われた第5代献文帝（465～471年在位）に対する、曇曜の供養ではなかったか（石松日奈子『北魏仏教造像史』ブリュッケ、125ページ）。献文帝は平城に七重の塔をもつ永寧寺を建てるなど崇仏の人で、むろん曇曜と親しかったが、いっぽう馮氏はスキャンダラスな稀代の女傑。馮氏に対する反感と献文帝への同情が、曇曜にあったことはたしかだろう。したがって、第13窟の開鑿は献文帝の崩御より後ということになる。

つぎに第11窟について。東壁の最上層に、第6代孝文帝の太和7年（483）

谷口 義介（GEN 会員）

の年紀をもつ「邑義信士女第五十四人造像龕」があるという。邑義とは造像目的でつどった民間の集団のこと。これは、国家的事業だった文成帝時代の曇曜五窟とは異なり、孝文帝のころには民間有志の仲間で自分たちの仏龕を造ることができるようになったことを物語る。

ところで、最初に見た第5・第6窟は、釈迦如来像の壮大、窟内彫刻の豪華さで群をぬく。このころの工事統轄者は馮太皇に憎まれた(?)曇曜ではなく、石造建築や石彫に長けた宦官の王遇だったらしいが、第5・第6窟は馮太皇・孝文帝時代の国力の充実ぶりを示して余りある。第5窟の本尊如来像は、孝文帝その人のために造られたという。

ところが孝文帝は、太和17年（493）8月、軍をひきいて平城（大同）を出発、9月洛陽に到着すると、突如として遷都を表明、10月には洛陽で都造りを始める。時を同じくして雲岡では、造像中だった第3窟が中止。他の中・小の石窟や仏龕まで、一時に放棄されてしまう。

いわゆる第1窟から第4窟までは石窟群の東端にあるので、

石仏寺の裏側を通り、潤れ谷を越えて、そちらの方へ行ってみる。

第3窟は、東西の幅が約50メートルと、雲岡石窟のなかで規模がもっとも大きい。祖母（実母説もある）馮太皇の追善のため、孝文帝が計画したものといわれる。ところが、突然の洛陽遷都で工事は中止、大石窟は未完成のまま残された。いま中央に椅坐する高さ10メートルの本尊仏は、後世おそらく唐代あたりに造られたものだろう。ふくよかな顔容は唐代的といえようか。

しかし、北魏の都が洛陽に移ってから、平城に残った人びとは小さな石窟や仏龕を造りつづけた。さきほど来た方にもどることになるが、第15窟右横の岩壁に彫り込まれた仏龕（写真）がそれである。整然と並んでいるのを見ると、同じ石工が一括して施主の注文を受けたとも考えられる。



インプース」のページに掲載されます。

- 参加費：無料
- 主催・問合せ：ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会事務局（〒546-0002 大阪市住吉区杭全1-15-18 大西ビル3F（特活）関西国際交流団体協議会内 tel. 06-6777-1039 fax. 06-6777-2050 e-mail: onefes.contact-post@onefes.net URL https://onefes.net/



第29回ワン・ワールド・フェスティバル GEN が動画で出展します

国際協力のイベント、ワン・ワールド・フェスティバルが今年オンラインで開催され、GENは活動紹介動画で出展します。GENとはどんな団体かを5分の動画で紹介するもので、会員有志が参加し、世話人の松本さんが編集してくれました。2月1日～28日の期間中公開されていますのでぜひご覧ください。活動紹介動画のほか、SDGs交流ひろば、オンラインセミナーなどさまざま

なコンテンツがあります。  
○日時：先行配信2月1日（火）～11日（金）／参加型ライブ配信2月13日・14日／継続配信2月14日（月）～28日（月）  
○参加方法：2月1日以降ワン・ワールド・フェスティバルのホームページにアクセスください。右のQRコードからも入れます。GENの動画はNGOなどの活動を紹介する「オンラ

大同緑化協力25年の軌跡 農村を回る～初期の活動

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で29回目です。（高見邦雄）

ちょうど30年前の1992年1月に、緑の地球ネットワーク準備会を発足させ、渾源県への調査団派遣（1月、5人）、最初の協力団（5月、7人）、会員募集と会報の発行など活動を開始しました。その年の9月から2か月余り、私は一人で渾源県の農村を回ることにしました。この決断は私には無理ですけど、現地を知ることが大事という佐野茂樹代表の指示に従いました。

しなければいけないことって、ないんですね。それに私は中国語ができません。見て回って、写真とビデオに残すくらい。最初は県の共青团の幹部がつきあいましたが、そのうちに放り出された。自分一人で動けばいいのです。協力プロジェクトのある西留郷の政府や農家に泊めてもらったりしました。

ある日の夕刻、渾源の町中で温増玉さんとぼったり出くわしました。県の林業局長でそれまで何度も会っています。彼が青年団の幹部を批判しました。高見が来ているのにどうして自分に連絡がない、と言って。温さんの自宅が私の泊まっている招待所の目と鼻の先にあることを知りました。

それからほぼ毎朝、彼の家を訪ね、朝食をごちそうになりました。たいていアワとジャガイモの粥です。ふつうならできないでしょうけど、彼の夫人が肝っ玉おっかあで、気兼ねなしにそれができたのです。毎朝訪ねるのは私くらいですけど、いつもほかの人も相談事にきていました。信頼のある人なんだ、という思いを強めました。

その日の予定をきいて、会議だと言われたら、私は一人で動きます。この会議が多いのです。どこかの農村に行く予定なら、それに同行させてもらいます。赤い車体に「森林消防」と白字で書かれた四輪駆動。

どこの村に行っても、笑顔で迎えます。それが楽しかった！そして農村のいろんなことを実地に学びました。あれがなかったら、私がこんなにのめり込むことはなかったでしょう。同じ村を一人で訪れ、炕＝オンドルに上げてもらって、いっしょに呑んだこともあります。

昼食時に必ずパイチューを注文します。56度のコーリャン酒で、1斤＝500gが2.7元、日本円で50円ほど。

栓は王冠なので、飲みきるしかありません。コップを並べ、3等分します。多すぎると私が言うと、私のコップから運転手のそれに移されました。

行った村で日中戦争のことをきくと、とたんに座が緊張します。当時のことを書いた内部発行の冊子を借りて、ボールペンで書き写しました。中国語はわかり 温増玉局長（左）と呑んべの運転手さん（右）。自宅と「森林消防」の前で。



YouTube GEN チャンネル

YouTubeでGENチャンネルをスタートして1年が経過しました。コンテンツも増加し、登録者数もすこしずつ増えてきました。いつも見ていただきありがとうございます。



今回「#9日陰斜面と日向斜面」、「番外編」を新たにアップしましたので

をまねたのです。渾源の村々の事情を知り、文字を覚えるのに役立ったと思います。

あのころは県南部をわずかな例外に、どこに行っても樹木はなく、まさに黄色い大地でした。そして1つの県のなかにも地形その他により、大きな格差があることを知りました。県境や郷鎮の境界はたいてい山や丘陵です。その村は雨で土壌を浸食され、土地がやせていて、水に困り交通も不便です。そのような村でも、果樹を植えたいという希望の強いことを知りました。やがて小学校付属果樹園に結びついたので

ぜひご覧ください。GENチャンネルはYouTubeのトップページから「緑の地球ネットワーク」で検索すると出てきます。また、左下のQRコードからも入れます。

日中植林・植樹 国際連帯事業の助成が 決定しました

日中植林・植樹国際連帯事業の助成1,500万円が決まりました。張家口市蔚陽鎮でのアンズとマツ合計30haのプロジェクトです。



認定 NPO 法人シニア自然大学校  
2022年4月開講  
地球環境「自然学」講座

自然と人との共生をテーマに森里海のつながりーいのちの循環を学ぶ講座です。

- 内容：講演会月2回（第2第4土曜日13時～16時）此花会館梅香殿会場またはオンライン全20回、自然観察会年6回
- 講師：田中克氏（京都大学名誉教授）、松沢慶将氏（四国水族館館長）、石崎雄一郎氏（ウータン・森と生活を考える会事務局長）ほか
- 受講料：対面講座30,000円、オンライン講座28,000円。
- 申込み方法：3月5日までに氏名、性別、住所、生年月日、電話番号、email、新規か継続か、対面かオンラインかを記載のうえ、ファクス、郵送、emailでお申し込みください。
- 主催・申込み先：認定 NPO 法人シニア自然大学校（〒540-0012 大阪府中央区谷町3-1-18 NS21ビル8F tel. 06-6937-8077 fax. 06-6937-8078 または地球環境「自然学」講座担当者 藤原雄平 fax. 0798-63-2950 e-mail : yfuji.3776m@oboe.ocn.ne.jp URL https://sites.google.com/sizen-daigaku.com/senior/Home)

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
\*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

森林ボランティアリーダー養成講座

**森林大学**

第36期生募集

森林を知りたい、森林で遊びたい、森林守りたいひとのための市民大学です。

- 日程：4月13日（水）～10月5日（水）（全18回）
- 内容：講座：19時～20時45分大阪産業創造館にて／野外実習：能勢町、箕面国有林、金剛山麓ほか
- 講師：滝口敏行氏（森林インストラクター）、山本博氏（林業技士）、山崎春人氏（森林インストラクター）ほか
- 受講料：35,000円（野外実習の交通費、宿泊費が別途必要）
- 定員：20名（18歳以上）
- 申込み・問合せ：4月8日までに下記まで NPO 法人日本森林ボランティア協会（〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30 tel./fax. 06-6376-8255 e-mail : mori@npomori.jp URL http://www.npomori.jp)

を集めています。ご自宅で眠っている古本がありましたらお送りください。今年から期間の制限なくいつでも古本市が利用できるようになりました。

- 受付期間：1月22日～順次お送りください。
- 送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付【注意】破れや書き込みのあるものは不可。雑誌（ISBNコードのついていないもの）、文学全集、百科事典、CD/DVD/VHS/レコード、取扱説明書、学習参考書・問題集、古いガイドブック、図録、個人誌、個人出版の本は不可。お送りいただいた本はお返しできません。
- 送り先・問合せ先：（公財）神戸学生青年センター（〒657-0064 神戸市八幡町4-9-22 tel. 078-891-3018 fax. 078-891-3019 e-mail : info@ksyc.jp URL https://ksyc.jp/)

★六甲奨学基金のための古本市

- 1月22日（土）から随時開催。時間は9時～22時まで。本の整理などのボランティアも募集しています。詳細は上記までお問い合わせください。

**編集後記**

2022年もどうぞよろしく願いいたします。本年もみなさまに楽しんでいただける会報をお届けできるよう励んでまいります。

**六甲奨学基金のための古本市**

六甲奨学基金の古本市のため、古本